

# 2024 年度 卒業生に関する就職先調査報告

2024 年 11 月

学事課 IR 担当：潘秋静

学長補佐：倉澤一孝

## 1. 調査目的

山梨学院大学は、本学の教育活動等について検証・評価し、今後の教育や学生支援活動の充実を図るために IR 調査を実施している。本調査では、本学の卒業生を採用した企業、および、今後本学の卒業生を採用する可能性がある企業を対象に、本学の卒業生の採用状況、卒業生が身に付けているコンピテンス（知識・技能・資質）、社会において必要と考えられるコンピテンス、本学の人材育成に対する期待などについてアンケート調査を実施した。

## 2. 調査期間

2024 年 9 月 1 日～2024 年 9 月 30 日

## 3. 調査方法

アンケート依頼はがきを対象企業に郵送し、Web アンケートシステム「Microsoft forms」を利用して回答を収集した。

## 4. 調査対象

- ✓ 対象：調査時点就職キャリアセンターの企業連絡リストに登録されている 276 社
- ✓ 有効回収率：35.1%（回答：97 社）

## 5. 調査項目

- 第 1 部 企業の基本状況
- 第 2 部 企業側の人材採用要件
- 第 3 部 本学への総合評価
- 第 4 部 自由記述（意見、希望等）

## 6. 調査結果の要約

<第 1 部 回答企業の基本状況>

- 本学と連携している企業 276 社に回答を依頼し、97 社（35.1%）から回答があった。
- 回答のあった企業の主な所在地は、山梨県、東京都、長野県、静岡県である。
- 回答が多かった業種は、卸売・小売業（31 社、32%）、製造業（17 社、18%）、建設業（9 社、9%）  
その他サービス業（8 社、8%）、情報通信（6 社、6%）、宿泊・飲食サービス（5 社、5%）となる。
- 回答があった企業の規模は、500 人未満の企業が 62 社（64%）、500～999 人の企業が 8 社、（8%）、  
1000～1999 人の企業が 8 社（8%）、5000～9999 人が 5 社（5%）、10000 人以上の企業が 4 社（4%）、  
2000～2999 人が 10 社（10%）である。

## <第 2 部 企業側の人材採用要件>

- 企業が採用する際に重視するコンピテンスを、「5.かなり重視する」と「4.重視する」を選択した割合を加算し、ランク付けすると、上位 5 位は以下の通りとなった。

採用する際に、企業にかなり重視される能力	比率
第 1 位：人柄・倫理観・責任意識	96.9%
第 2 位：自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力	84.5%
第 3 位：環境を適応する力や自分を管理する力	73.2%
第 4 位：学んだ知識を用いて、社会の問題解決に活かす力	70.1%
第 5 位：異なる価値観を尊重し、複数の言語で周囲といし疎通・協調する力	56.7%

- 他方、「1.まったく重視しなかった」の割合でコンピテンスをランク付けすると、企業が重視していないコンピテンスの上位 5 位は以下の通りとなった。

採用する際に、企業にまったく重視されなかった能力	比率
第 1 位：海外留学経験	46.4%
第 2 位：学部の種類	37.1%
第 3 位：大学の評判・知名度	24.7%
第 4 位：専門分野に関する知識・技術	23.7%
第 5 位：推薦や紹介を受けたこと	17.5%

- 本調査の結果から、連続過去 2 年間の調査結果と同じ、海外留学経験や国際能力の育成が企業によって必ずしも重視されていないことが明らかになった。企業の規模や国際業務の有無に応じて、国際人材に対するニーズは大きく異なる。しかし、これが本学の人材育成や教育改善において不要な要素であるとは一概に言えない。
- 国際化が進む現代社会において、国際的な視野を持ち、異文化を理解する能力はますます重要になっている。したがって、海外留学の経験、国際視野の拡大、そして外国語能力は、将来的に国際舞台で活躍する人材にとって不可欠な要素であると考えられる。これらのスキルは、企業が現在重視していない場合でも、長期的な視点で教育プログラムに取り入れる価値があると言える。

- 企業が大学に育成してほしいと考える能力の上位5位は以下の通りである（複数選択）。

今後大学側に育成してほしい能力	回答数
g. 自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力	77
k. 人柄・倫理観・責任意識	74
h. 計画・立案・調整・組織化・行動する力や挑戦する力	61
f. 環境を適応する力や自己管理する力	60
i. 異なる価値観を尊重し、複数の言語で周囲と意思疎通・協調する力	36

- 本学と他大学の卒業生の能力を比較した際、企業による肯定的な評価は特に注目に値する。具体的には、以下の能力項目において「全体より高い」「全体よりやや高い」との評価が目立つ。

他大学の卒業生よりも優れているとされる上位5つの能力	比率
k. 人柄・倫理観・責任意識	52.6%
g. 自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力	45.4%
f. 環境を適応する力や自己管理する力	41.3%
h. 計画・立案・調整・組織化・行動する力や挑戦する力	41.2%
i. 異なる価値観を尊重し、複数の言語で周囲と意思疎通・協調する力	36.1%

- これらの能力項目は、企業が大学教育に求める重要な能力のトップ5位にも位置付けられている。この結果は、昨年度の調査結果と同じ、本学の卒業生が市場のニーズに応じた能力を備えていることを明確に示している。企業からのこのような高い評価は、本学のカリキュラムやディプロマポリシーが人材育成プログラムにおいて効果を発揮していることの証であり、教育の質を保証することを反映している。

### <第3部 本学への総合評価>

- 本学卒業生の総合評価について、採用実績のある81社の企業から高い評価を得ている。そのうち68社（全体の84%）が「とても満足している」または「大体満足している」と回答しており、採用企業が本学の卒業生や教育成果に対して肯定的な見解を持っていることが明らかになった。ただし、この割合は2022年度の90%、2023年度の94%と比較してやや低下している。

### <第4部 就職先の声から見た本学の強み>

#### 本学の強み

#### 1. 卒業生の社会人基礎力（ソフトスキル）

責任感や協調性、真面目さ、目標達成意欲など、高い評価を受けている卒業生が多く、企業の社風にもマッチしている。

#### 2. 分野や特性に応じた強み

スポーツ科学分野や体育会系出身者の活躍が期待されており、特定分野で高い評価を受けている。